
令和2年

2月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

岐阜農林 ■ スマート農業 普及活動等成果発表会にてスマート農業の成果発表

2月13日シンクタンク庁舎にて、令和元年度岐阜地域普及活動等成果発表会が開催された。この発表会は岐阜農林事務所と岐阜地域農業改良普及事業推進協議会の主催によるもので、今年度の普及活動成果を農業者や関係機関に発表し、今後の農業振興に資する目的で開催されている。

当日は管内の農業者、市町関係者、JA営農指導員など約70名の出席があった。普及活動事例発表では「スマート農業を活用した超低コスト輸出用米生産実証の取組み」と題して、(農) 巢南営農組合で実施しているスマート農業技術を駆使した水田農業について、作業時間や実用性に関する調査結果を報告した。

今後も農業普及課では、様々な場面を通じてスマート農業の成果を発表し、普及を進める。



【成果発表会の様子】

郡上農林 ■ 夏秋トマト 「郡上トマトの学校」卒業生・研修生意見交換会を開催

郡上トマトの学校は2月12日JAめぐみの郡上営農経済センターにおいて、「就農後の状況報告と研修生に向けた助言」と題してトマトの学校卒業生と研修生の意見交換会を開催した。

4名の卒業生からは、苦労話なども交えながら、就農後のトマト栽培を行うための要点について助言があった。

天井ビニールの設置を一人でやる場合の工夫、作業の段取り、秋季の収量確保を意識した作業の優先順位、薬剤防除の必要性など現場を踏まえた助言は研修生にとって大変参考となり、就農後の作業を意識できる内容となった。

農業普及課は今回の意見交換会の企画提案を行った。トマトの学校の研修内容の充実を図るため、今後とも様々な提案や調整を行っていく。



【意見交換の様子】

飛騨農林 ■ 担い手 青年農業士連絡協議会飛騨支部がGAP勉強会開催

1月30日に岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部主催のGAP勉強会が開催された。

勉強会では実際にGAPに取り組んでいる生産者3名を講師に招き、GAPに取り組んでみて苦労した点や良かった点等について講話があった。

今回、若手、中堅、ベテランの各生産者からは共通してGAPを経営改善の1ツールとして活用していき、労働環境の改善を図っているといった話を伺うことができた。

また、青年農業士からはGAPに関わる業務量についての質問や従業員に対する教育方法について等の実践的な部分で質問があった。

農業普及課は関係機関と連携しながら担い手の育成を支援していく。



【関心の高かったGAP勉強会】

革新支援センター■担い手 岐阜市の畜産経営体での家族経営協定調印式

2月19日、岐阜市農業委員会の主催で「家族経営協定調印式」が開催され、岐阜市内の肉用牛農家1戸が家族経営協定を締結した。今回協定を締結した農家は、後継者が新たに繁殖部門を設けることで共同経営者として就農するもので、「地域に根差した和牛農家」を目標に、経営方針、役割分担、働きやすい就業環境などについて家族間の話し合いに基づいて取り決めた協定となっている。

今回、農業革新支援専門員は該当農家の家族経営協定書の作成支援と当日の運営支援を行った。今後も関係機関と連携して、繁殖部門に係る経営、技術支援を行っていく。



【家族経営協定調印式】

売れるブランドづくり

西濃農林■トマト 冬春トマト若手農業者ガヤガヤ会議開催される

2月4日、海津市で「冬春トマト」を生産している若手農業者による「ガヤガヤ会議」が開催され、参加者らが産地の抱える課題や将来像を語り合った。西濃就農応援隊長である松永海津市長らも出席し、参加者が車座になって行われた会議は、海津産トマトのキロ単価が低迷している現状で、「売れる仕組みをどう作っていくか」をテーマに話し合われた。

また、会議に先立ち、本年度に新規就農した5人に「清流の国ぎふ農業担い手証書」が交付された。

農業普及課は、アンケート調査の実施や会議の運営方法について、関係機関と連携し支援した。



【ガヤガヤ会議の様子】

可茂農林■成果発表 可茂の農業を考える会開催

2月19日、可茂総合庁舎において、農林事務所と地域農業振興協議会の共催で「可茂の農業を考える会」を開催した。地元県議会議員、農家およびJA・市町村等関係機関など約100人が参加した。

今回は、テーマを「GAP導入による農業の持続的発展」とし、農林事務所からは、「可茂農林事務所におけるGAPの推進」の題名で、管内農家へのGAP導入支援事例や今後の取組方向について発表した。

また、認証GAPに取り組んでいる岐阜県農業大学校の学生や地元の観光農園の関係者から事例発表を頂いた。

基調講演では、(株)龍の瞳の今井代表取締役から、グローバルGAPの取得経緯やGAPに対する考え方、意義を中心に講演して頂いた。

農林事務所では、今後も関係機関と協力しながらGAP導入を推進していく。



東濃農林■水稻 米づくり研修会を開催

JAとうとでは、2月14日に瑞浪市、17日に多治見市、土岐市の水稻担い手農家を対象にした米づくり研修会を開催した。

当地域では近年、夏期の高温で米の品質低下が問題となる中で、良食味米生産への関心が高まっており、今年度、JAと農業普及課で実施した水稻生育調査や実証試験等の結果を報告し、良食味米の安定生産技術等の普及を図ることとした。

JAからは、管内主要水稻生産者の食味検査、土壌診断結果が報告され、当地域の傾向が説明された。また、JAが推進する業務用の多収品種「ほしじるし」の増肥試験結果が報告された。農業普及課からは、



【米づくり研修会の様子】

良食味米栽培の取り組みと高温耐性品種試験結果について情報提供を行った。良食味米生産については、地力窒素の影響も考慮した栽培管理を検討することを提案した。その後、担い手農家との意見交換が行われた。

農業普及課では、今後も良食味米の安定生産に向け、関係機関と連携し支援を継続する。

下呂農林■トマト 夏秋トマト3Sシステムの勉強会開催

下呂地域では、本年度、大玉トマト生産者4戸が県中山間農業研究所において開発された夏秋トマト隔離型培地耕「3Sシステム」を導入した。中には10アールあたり収量が25トンを超えた生産者も現れる等、同システムに対する注目度が高まっている。

このような中、農業経営課（農業革新支援センター）と農業普及課では、2月14日に下呂総合庁舎において同システムの勉強会を開催した。当日は生産者8名、JA担当者、中山間農業研究所研究員、農業革新支援専門員等、合計15名が出席した。

勉強会では中山間農業研究所研究員が講師を務め、研究所内での試験成績や飛騨地域での取り組み事例を紹介した後、生産者との意見交換を行った。

管内では、来年度には新たに2名の生産者が同システムでの栽培を予定し、合計51アールの栽培が計画される中、出席者は飛騨地域との一層の連携と自主的な勉強会活動の継続を確認した。

農業普及課では、今後も試験研究機関等の関係機関との連携のもと、「3Sシステム」の導入・普及に向けて支援を強化する。



【勉強会の様子】

住みよい農村づくり

揖斐農林■揖斐郡農業振興協議会 令和元年度いび農業活性化研修会

2月14日揖斐総合庁舎にて、揖斐農林事務所と揖斐郡農業振興協議会の共催で、令和元年度いび農業活性化研修会を開催した。揖斐管内から、農業士・認定農業者・団体・法人など120名の参加があった。研修会では、揖斐農林事務所農業普及課中島係長より「令和につなごう大野の柿産地」として、普及活動事例、県スマート農業推進室の高木室長より「岐阜県におけるスマート農業の推進について」の情報提供があった。また、講演会では食環境ジャーナリストの金丸先生より、「タカラは足元にあり！」と題して、地域の魅力を見つけ人づくりとあわせて新しい価値観を育て、地域を活性化し、地域経済を回していこうと、各地の事例紹介とともに、地域づくりへのエールが送られた。

今回の研修会は、農業者・関係者が一堂に会して、自分達の地域について再考する良い機会となったが、引き続き揖斐農業・農村の活性化に向け、具体的な取り組みに発展させていくこととしたい。



【熱弁の講師先生】

中濃農林■普及指導活動成果発表会 「ひらく農業・中濃」を開催

中濃農林事務所では、2月12日に令和元年度普及指導活動成果発表会「ひらく農業・中濃」を開催し、県議会議員をはじめ、農業者、関係機関等約70名が出席した。

農業普及課からは、管内の主要品目である「ゆず」と「円空さといも」の生産振興、産地拡大を目指して展開した支援活動や、その成果について発表を行った。また、講演会では、(株)フォレストファーム代表取締役社長の林氏を招き、にんじんの大規模栽培から加工・販売や、農家カフェ運営までの経営概要と、農業の6次産業化に向けた戦略上のターゲットとコンセプトの絞り込みの重要性等について語っていただいた。



【発表の様子】

農業普及課では、これからも管内の品目・産地の拡大発展や担い手の育成などについて、関係機関等と連携した継続的な支援を展開していく。

恵那農林■活動検討・PR **農業普及課成果検討会を中津川支所成果検討会と合同開催**

農業普及課は2月13日に恵那総合庁舎で、中山間農業研究所中津川支所との合同で普及活動検討会を開催し、管内外の生産者・農業関係者など計147人が参加した。合同開催は9回目となるが、農業普及課からは、スマート農業の現地実証、いちごの産地振興、シクラメンの産地支援についての活動報告を、また支所からはトマト・なすの3Sシステム技術をはじめ、シクラメン、クリについての研究成果を発表した。休憩時間には、活動のパネル展示やスマート農業に関する展示も行い、参加者に好評であった。



【農業普及課からの発表】

参加者からは農業普及課及び中津川支所に一層の活動支援を望む声が聞かれ、両機関に対する期待の高さが伺われた。